

総合心療センター 看護部

看護師長 山中 俊典

看護部体制

心療センター看護全般；近森病院副看護部長 1 名

外来（精神科、心療内科、ストレス外来）：主任 1 名 外来看護師 3 名が病棟兼務

精神科急性期治療病棟（1 単位 2 フロアー）：看護師長 1 名、看護主任 1 名

リソースナース：精神科リエゾン看護専門看護師 1 名 精神科認定看護師 3 名

外来と病棟、地域との看護連携を強めている。

近森病院看護部として、各種委員会に参加し、病院全体の役割を遂行し、心療センター内では各分野でのリーダーを担っている。（教育、医療安全、感染管理、退院支援、地域連携、業務改善、倫理カンファレンスなど）

精神障害者の地域移行・定着を推進し、地域生活を支援する

2025 年も引き続き、感染症対策を強化し、デイケア、外来をストップすることなく診療、支援を継続することができた。新規患者の診療は月平均 50 件の依頼が続いており、医師の数が増え受け入れ体制は充実したが、医師と検討しお断りすることも多い。精神科（心療内科、ストレス外来）では、神経症、発達障害、依存症、思春期、認知症など社会的なニーズが高まるとともに、年齢も低年齢から高齢者まで幅広く広がっている。また、他病院や施設や地域、行政、警察など他機関からの相談も多岐にわたるため、医師の診療だけでなく看護外来など、支援できる体制をつくって対応した。

他院からの受け入れ；急性期入院、ECT（電気けいれん療法）、クロザリル処方など

デイケア、精神科病棟の再編にむけて

精神科医療の動向として、在宅機能が強化され、入院は急性期に特化され、入院日数の短縮、再入院の防止を目指している。入院治療のメリットを最大限にいかし稼働率、急性期率の確保に努めてきたが、デイケア利用者の減少、入院数の減少傾向となっている。これは、精神科医療の目指す方向性に合致している。

今後、5～10 年先を見据え、デイケアの再編、入院病床の削減に取り組んでいる。そして、さらに病院内外の連携を強め、精神科外来機能、在宅支援を強化していく体制を構築していく。

急性期病院の精神科の機能を強化し、役割を果たす

リエゾンチーム活動では、精神科リエゾン専門看護師 1 名が、外来勤務兼任で精神科認定看護師、他職種とチーム活動を展開している。県下で、自傷患者の救急搬入がもっとも多く、自殺未遂者ケアでは救急患者精神科継続支援料が算定できるように、施設基準を整えている。

高知市の精神科救急医療事業（土日祝日の輪番体制）を担い、師長、主任が当番を担当し、時間外入院を受け入れた。

教育活動に関して

看護学校その他非常勤講師（近森病院看護部参照）

障害者虐待防止、患者と自己理解を深めるための研修会（10 回）を企画、運営し、患者の権利擁護に努めている。